

第 3 回 油日学区幼保・小中学校再編検討協議会 議事概要 (案)

1. 日 時：令和 2 年 2 月 2 1 日 (金) 1 9 時 3 0 分 から 2 1 時 1 5 分

2. 場 所：油日コミュニティセンター

3. 出席者：委員 1 5 名 欠席 0 名
事務局 (市) 5 名

4. 議事内容

1) あいさつ

< 委員長 >

傍聴者紹介 毎日新聞記者

< 委員長より > 会議の様子について写真撮影の可否を委員へ問う。

< 委員 > 委員からの異議なしで了解

2) 会議の概要報告について

[事務局より資料 1・2 について説明]

事務局) 前回、指摘のあった「結果概要が項目だけになっている」という点について、意見の概要を新たに付け加えた。

→ 特に意見なし 内容については了解

3) ホームページでの公開について

[事務局より資料 3 について説明]

事務局) 前回の会議での意見を受けて油日学区幼保・小中学校再編検討協議会の専用ページの体裁を作成した。会議の概要報告および会議資料について、PDF をリンクで貼りつける形にしている。会議資料は随時公開し、概要報告は次の会議で内容の了承を得たうえで公開することとしたい。

委員長) 概要報告とは別に議論の詳細が記された「議事報告」を事務局で作成してくれているが、チェックしたところ、文言に修正すべき点がみられる。

【訂正箇所の指摘】

○第 1 回目の議事概要

- ・ 2 ページ 10 行目 この協議会の公開会議 → この協議会だけの公開会議
- ・ 2 ページ 24 行目 多数にて決定 → 多数にて公開することで決定
- ・ 2 ページ 30 行目 来て帰ってくれとは言えないので
→ 来てもらっているの
- ・ 3 ページ 8 行目 全校生徒 → 全校児童
- ・ 4 ページ 6 行目 一貫教育を → 一貫教育の

○第2回目の議事概要

・2ページ4行目 学校の公報 → 学校の校報

委員長) ホームページに掲載する会議の概要については、資料1・2の会議の概要報告が良いのか、詳細を記した議事概要が良いか、それとも両者の中間のようなものが良いか、いかがでしょうか。

委員長) ほかの協議会では会議の概要報告を掲載しているようだが、これでは内容が分からないので、もう少し詳しく掲載したほうが良いと思っている。

委員) 資料1・2のような概要報告では分からない。議事録を載せてはダメなのか。

事務局) 協議会として議事概要を掲載するというのであれば、掲載させていただく。

委員) 議事概要を掲載したら良いのではないか。

委員長) ほかの協議会でこのような形で掲載しているところはあるのか。

事務局) 議事録をホームページに掲載して公開しているところはない。

委員) 甲賀市の評価委員については、このような議事録が公開されている。ただし、氏名は公開されていない。議事録が公開されないと臨場感が伝わらない。

委員長) 概要報告の下に付くような形になるのか。

事務局) 内容が被るので、議事録を掲載するのであれば、資料1・2の概要報告をやめて、議事概要の形を会議の概要報告としたほうがスッキリするのではないか。ただし、形式を変更することは可能なので、この場でどこまで公開するのかを決定していただきたい。

委員) 氏名は削除して、出席者の人数だけにしてはどうか。

委員長) 活発な議論をしてもらっているので、議論の内容はこのままの形式にして、出席者の氏名を削除するというのでよろしいでしょうか。

《委員からの異議なし》

事務局) 最終的な文言の訂正などを行って、委員長と協議の上、ホームページに掲載させていただく。

4) ワークショップ

委員長) 前回は2班に分かれて議論したが、今回は全体で議論していきたい。議論の内容については、前回のワークショップで出た意見を事務局でまとめてくれているので、これをベースに議論していきたい。

委員) まとめられた資料のうち、「現在の学校・規模のメリット」については油日小学校の良さに関する意見だと思うが、「再編によるメリット」は一般論であって、甲賀市の教育環境の現状が学校教育課から全く示されていない。市が示している再編計画では油日小、大原小、佐山小の3校をひとつにするというものだが、そうなった場合、油日小の良い教育環境がどのように変化するのかを保護者の方々は非常に心配していると思う。現在、複数学級である水口地域の小学校の現状がどうか、小中一貫教育という話も出ているが、その準備はできているのか、そういう具体的なことが見えないとなかなか議論できない。提案として、学校教育課に出てきてもらって、もっと説明してもらいたい。

委員長) 今までの議論も踏まえて、皆さん、いろいろと考えていると思うが、学校教育

課からのアクションというのはどうなっているのか。

事務局) 事務局のメンバーそれぞれが担当も違い、勝手な想像でお答えすることもできないので、次回の会議までに回答できる体制を整えてお答えするようにさせていただきたい。

委員) 甲賀市の教育の現状について知りたい。それなしで複数学級が良いと言われても理解できない。前回のワークショップで「騙されているみたい」という発言があったように、保護者としては非常に心配だと思う。一般論だけではアカンと思う。地域の特性を考慮する必要がある。

委員) そもそも、この再編の議論が出てきた経緯を考えると、一昨年のタウンミーティングで市長が言った「公共施設を床面積ベースで3割削減」ということに端を発しているのではないか。一番手っ取り早いのが学校を減らすこと。効率面、財政面での観点で作られた計画ではないか。それぞれの小学校で100年以上の歴史がある。地域コミュニティと小学校は非常に密接な関係がある中で、これを統合してしまうことは地域コミュニティの破壊に繋がるのではないか。

委員) 児童数が減ってきているという事実はあるが、小規模のほうが行き届いた教育ができるという意見もあれば、複数学級のほうが切磋琢磨できるという意見もある。私は小学校で競争を持ち込むのはいかなかなと思う。もうひとつは、これから10年先、20年先を考えたときに、市内のあちこちで考えないといけないことであるが、限界集落になることが見えている。若い人とたちは都会へ出て、地域に残るのは高齢者ばかりで、空き家が目立ち、ゴーストタウンになっていく。そうならないように、地域に定着してもらう、都会から戻ってきてもらうことをやり始めたばかりであるときに、コミュニティに小学校がなくなったというのでは人は増えない。現状からどうするかではなく、人を増やすためにどうしていくかを考えて計画していくべきではないか。教育の専門家ではないので、教育的側面のことはほかの委員に任せるが、行政的な側面から見て、効率だけでなく、コミュニティの継続性を考えてもらいたい。

委員長) なかなか議論しにくいので、何かテーマを絞って議論したい。事務局がまとめた資料の中で学習に関する意見がいくつかあるので、まずはその点で議論したいと思うが、保護者の方はどうか。今の環境で学習に関して困っているということはあるのか。

委員) 滋賀県が学力テストで全国最下位であることを甲賀市はどう思っているのか。再編したとして学力が向上するのか。大阪府は橋本知事がいろいろやっていたが、甲賀市は何もしないのか。滋賀県が何もしていないのかもしれないが。体力テストも甲賀市は20番目くらいだったのが、40番目くらいに下がっている。その中で授業を増やすのはいいが、甲賀市の職員のほうが多いと思うので、それを減らしてもらう必要もある。その辺を甲賀市教育委員会はどう考えているのか。学習については、僕らが議論することではなく、市の宿題だと思う。

委員長) その中で油日小はどうか。

委員) 言うてはいけませんが、年によって上下はあるが、油日小は良いほうである。滋賀県の中でも良い市と悪い市があつて、全体として滋賀県が最下位になっている。

足を引っ張っている市があるのも事実である。こういうことを言うと差別になるが、外国人が多いところでは日本語での授業もままならないことがある。ただ、そういうことがあるから、学力のことばかりに躍起になって言うのもいけないと思う。ひとつの目安として滋賀県が何でこんなに悪いのか保護者の方が不安に思うのもあると思うし、2~3 クラスの学校になったら本当に学力が向上するのか、ということもあると思う。だからこそ、実態を包み隠さず、言えないこともあるかと思うが、言ってもらわないと。まとめてある資料の再編によるメリットは、一般論でしかない。

委員) 現在の学校のメリットやデメリットを話し合えたとしてもイメージでしかない。推測を並べたとして判断ができるのか。具体例や統合した時の計画が示されて初めて議論できると思う。現状で不安はあるが、それは良くなるのか、悪くなるのか、どちらなのか分からないという不安であって、今、再編のことについて話し合ったとしても意味のある結論が出るとは思わない。

委員) 適正な学校規模というのは学校を新設する際に国がお金を出してくれるという基準であるし、学校教育法の施行規則の中に12~18学級と記載もあるが、特別な事情がある地域においてはこの限りでないという記述がある。これは、財政的な側面からの話であって、教育的側面のことでない。2008年くらいから中央教育審議会が国が教育面での適正な学校規模というのを検討し始めた。甲賀市での再編計画の検討もこの動きに合わせて行われたと思うが、結局、国のほうは結論が出ないまま中断してしまった。学校規模の例外規定について、油日小学校はどうなのかを考えると、地域コミュニティと学校のつながり、ビオトープで文部科学大臣賞を取ったり、企業も含めた地域の象徴としての油日小学校なのだから、再編には賛成しかねる。

委員) 今、コミュニティ・スクールを推進する動きがある。地域が学校経営に関わって、例えば油日小学校なら、ビオトープをどうしていくかなどを検討していく。湖南市は積極的に進めているし、文部科学省も全国的に進めようとしている。そんな中で再編してしまったら、ものすごく大きな地域になってしまって、訳が分からなくなってしまう。今の規模だったら、地域が学校を支えるということになるが、再編の動きはそれと180度違うものになってしまう。そういうことについても学校教育課に聞いてみたい。現状ではそういう情報が何もない。延べ面積などの数字の話ばかりでおかしい。

委員長) コミュニティ・スクールは綾野小で行われていますね。

事務局) 市長が言った公共施設30%削減については、今後40年かけて実施しなければならない財政的な課題である。公共施設のうち、学校が占める割合が4割でもっとも大きいのも事実である。しかし、再編計画については、面積を減らすための財政的観点で作成されたものではなく、あくまでも子ども教育環境という観点でまとめられたものであることはご理解いただきたい。また、ご質問についても可能な限りお答えできるように準備させていただきたいと考えている。学校が地域コミュニティの中心であるというご意見ももっともだと思うので、そういったことも地域の皆様方にご議論いただきたい。再編計画を押し付けるために来ているわけではないという

ことはご理解いただきたい。

委員) 今ある学校を再編して大規模校にする理由が財政的な側面以外には考えられない。受け止めとしては、それ以外にない。目的が分からない。

事務局) おっしゃることのお気持ちは分かるが、計画の切り口はその観点ではないということでは理解していただきたい。

委員) 公共施設の床面積について、甲賀市と人口が同規模の市との比較のグラフが広報に載っていたが、甲賀市は平成の大合併でできた市なのに対して、ほかの市は違う。そんな比較をすれば、甲賀市がもっとも大きくなるのは当たり前ではないか。

事務局) その点については、資料が手元にないので、詳しくはお答えできない。

委員) 甲賀市の資料の出し方がずるい。削減しなきゃいけないという出し方になっている。

事務局) それについては、担当に伝えさせていただいて、確認させていただく。

委員) タウンミーティングの時にも話に出ていたが、甲賀町にも類似施設は確かにたくさんあるし、使っていないものについては見直してもよいだろう。ただ、学校や図書館など教育施設はコミュニティの中心なのだから残すべきだという意見が市長の前で出ていた。なのに、今、再編計画が出てきたので、なぜなのかと思う。

事務局) 再編計画については、公共施設の削減計画を出す前から検討されていた。計画が公表されたのは平成 27 年であるが、合併当初から検討は始まっていて、公共施設の削減計画と直結するものではないということではご理解いただきたい。

委員長) 保護者のほうから、滋賀県が学力で最下位であって、それが学校再編でどう変わるのか分からないし、その中でなかなか議論することが難しいという意見が出たが、それはそれで良く分かる。今の議論では、年配の方からの意見が多いので、保護者の方から何か意見はありませんか。

委員) 油日小と、甲賀市内の複数学級ある学校で、学力の水準がどの程度違うのかということでは確かに知りたい。それによって、再編を進めてもいいという考えになるかもしれないし、今のままだでもいいという結論になるかもしれない。今の学校では単純にテストの点数が良ければいいというわけではなく、作文もできたほうがいいし、いろんなことができたほうがいいという風になってきている。それも含めて、1 クラス学校のほうがいいのか、2~3 クラス学校がいいのか知りたいと思う。受験も変わってきているので、そういうことも含めて、どちらがいい結果を残せているのかを教えてほしい。それによっては、保護者のほうも意見が出しやすいのではないかと思う。

委員長) 事務局で答えられるか。

事務局) 今は答えられない。

委員) 今回は、次回の会議に向けて、聞きたいことを保護者のほうから出すというのでどうか。

委員長) それで構わない。

委員) 仮に合併したとして、今後、その学校の規模が維持できるのか。再編するとして、これから準備して時間がかかると聞いたが、その時に 3 つの学校が合併したところで、1 クラスしかできないということにはならないか。人数が減ってきたから

合併するという議論になる前に、何とかして子どもの数を増やそうという話にならないといけないのではないかと思う。合併して人数や規模が維持できるのかというのは知りたいところである。

委員) やってしまったら後に戻れない。後の祭り。

委員) 対処療法だけではいけないということ。

委員) 私は昭和 23 年生まれ、団塊の世代。油日小学校では私たちの年代が一番多かった。1 クラス 55 人が 3 クラスあった。同じ学年の人の顔も覚えられない。今は 35 人学級だけでも、ほかのクラスについては分からないのではないか。これを切磋琢磨というのか。人数が多い少ないではなくて、先生がきちんと子ども一人一人を見て対応できているのかということのほうが大事。特に小学校では。そういうことが小規模校と大規模校でどちらが適切にできるのかということを考えていく必要があると思う。

委員長) いろいろな意見があると思うが、学校再編にあたって問題となるのはイジメだと思う。前回の会議では油日小学校ではイジメはないという話だったと思う。再編によって、そういう問題が生じる不安と対応についてのメリットが出ているが、その辺りについてはどうか。

委員) 油日小ではイジメはないということになっているが、細かいことはある。

委員) 人が集まっているわけだから多少はある。ただ、その時の取り組みが違ってくる。油日小くらいの規模だと、ワンチームで対応できる。担当の学年が違う先生も気に掛けることもできるし、じっくりと話を取り組める。油日の地域性によるのか、保護者が学校の先生を信頼している。PTA の活動についても、学校をより良くしようという傾向が強い。地域の方々の油日小に対する思いも強い。

委員長) 小規模だとじっくり取り組めるという意見もあるが、資料によると、再編によって子どもたちで問題を解決することができるというメリットが挙げられている。

委員) 先生から聞いた話だと、本人がイジメだと思えば、イジメにカウントされる。子どもによって捉え方が違う。

委員) 甲賀市内には様々な規模の小学校があると思うが、学力のことだけではなく、イジメのこと、不登校の問題などについて、個別の学校というわけではなく、小規模校、中規模校、大規模校というような括りでの比較資料は出せるのか。

事務局) 学力のことに関して言えば、一概に規模で比較できるものではない。また、イジメの件数については、統計として児童 1,000 人あたりに対しての件数ということになるので、極端な話で言えば、2 人しかいない学校でイジメがあれば、統計的には 1,000 件あったことになってしまう。そういうデータが有効なのかという問題もある。また、学力テストのデータについても学校規模に応じた比較データは公表されていないし、甲賀市においても学校ごとの個別データは公開していないので、一度持ち帰らせてもらうが、そういったデータを提示するのは難しいと考える。

委員) そういうデータが出せないということになると、それで判断することはできないので、油日小の現状で判断せざるを得ないということになる。

委員) そもそも規模が大きくなることのメリッ的なデータが出ないのに、何でこんな議論をしているのかという話になる。別に統合しなくていいんじゃないかという

ことになるのではないか。

委員) 平成 27 年に市が計画を出してきたということは、メリットがあるということで検討して出してきた。ということは、複数学級にするということに対して自信があるはず。そうでなければ、こんな提案をしてはいけない。何も言えないではどうにもならない。保護者はそういったことが不安であって、一度、再編してしまっただけ失敗したからといって元に戻すことはできない。だから、教育の内容についての話が何もないということが問題。このことは学校教育がもっと主導的に動かないといけない。主管しているのはどこですか。

事務局) 教育総務課が主管している。

委員) 教育総務課。何で学校教育課が来ないのか。一番大事なのは教育の中身。保護者が聞きたいのもそこだ。それを言えないでは議論なんてできない。

委員) 教育総務課が来るということは財政的な問題ということ。

委員) 再編計画の最初に「子どもたちのためによりよい保育・教育を目指して」とあるのが前提。その中で細かい話は出せないということであるから、皆さん、モヤモヤしているということではないか。

委員) 地域から出て行った人を呼び戻すという動きを甲賀市ではやっているのか。

委員長) U ターンや I ターンといったことはやっていると思う。

委員) 貴生川周辺をダムとして堰き止めるというような動きはあると聞いている。

委員) 100 年後には滋賀県がなくなる、近畿で残るのは大阪だけという話もあるのに、孫、ひ孫、玄孫と見られるように甲賀市の職員が動いてもらわないと。それがなければ、この議論に意味がないし、無駄な時間を費やしているだけ。

委員) 自分の子どもに対して、ここに住んでいるメリットを話せるのかな。話せないんじゃないかな。

委員) 減らすことばかり考えていて、増やすことに対してのデメリットしか行政からは聞こえてこない。明るい方向の議論をするべきではないかと 3 回目にして思う。将来のことに対してメリットのある会議をしたほうが良い。

委員) このやり方でやったら、10 年、20 年後には甲南町の学校と合併したほうがいいんじゃないか、という話なるのでは。

委員) 放っておけば、油日学区のほとんどの字が限界集落になる。

委員) 近くに学校もないような地域に人が呼べるのか。逆にどんどん離れていくのではないか。

委員長) 人を離さないというのは、その土地の文化、風習から変えていかないとなかなか難しい。子どもについても減っていくのが目に見えているので、その中で油日小を維持するのか、再編するのかという議論なのだが、なかなか結論が出ない。結論を出す必要もないのだろうけど、こういう意見もあったということの良いのか、それとも結論を出すのか。

事務局) どちらか一つの結論に決定してくださいということではないけれども、いろいろな意見があった中で、全体としての方向性はこういう方向だ、といった報告はいただきたい。

委員) いろんな意見はあるだろうけど、だいたいの方向性は見えてきたんじゃないか。

- 委員) 人を呼んでくるというけれど、何かがバンバンできるとか、首都機能が来るとか、そういうことがあったとしても人口減少は止められないと思う。何か施策をしたところで、どの程度の効果があるのか。僕は非常に悲観的で、10年経ったら、世帯が半数くらいになるのではないかと思う。そうした中で、せめて旧町のレベルでまとまったほうがいいたろうし、複数学級の学校のほうが良いと思う。イジメということではなくても、人間には相性があるので、それをクラス編成で配慮できるようにしたほうが良い。それと、人数が減ることによって、子どもたちの選択肢を狭めることになる。ただ、教科学習という面においては少人数のほうが良いと思う。甲賀市の方針としては、3~6年は35人学級、1・2年は25人学級となっている。人間関係に対応できるということと、人数が少なくなると体育の授業でできることが狭められるというデメリットがある。これを一般論と言ってしまうと、議論が続かない。油日、大原、佐山にしてもそれぞれに良いところがあるが、それがいつから始まったのかというと、必ずスタートがある。新しい合併した学校についても伝統はできる。
- 委員) 小学校について言えば、今の大きさがコミュニティとしての限界、子どもを育てるブロック。それについて、社会的に揉まれていないという反対意見が出てくると思うが、それは中学校、高校と進んでいくことで社会人への道ができると思う。油日というコミュニティの中で育てていくことが大切。スポ少などは学区を超えた範囲で学校教育を離れて活動している。現状で大きな問題がない以上、油日という単位で子どもを育てるのがちょうど良いと思う。
- 委員) 人数が多かろうが少なかろうがイジメがあるところはあるだろうし、たまたまその学年だけあつたりすることもあるだろうから、関係ない。子どもにとっては1クラスというのは、すごく仲の良いグループができて良いところもあるけれど、中学校に進む段階でクラス編成ということに心配が出てくる。クラス替えのない環境というのもその後の人生において影響があるんじゃないかとちょっと思う。今の1年生は19人と非常に少ない中で過ごしていて、いざ中学生になったときに、いきなりイジメじゃないけど、変な感じになったりすることもあるのではないかと考えたりもする。
- 委員) それって、大人数だったらならないのか。
- 委員) 結局、多かろうが少なかろうが一緒だと思う。
- 委員) 兄弟がいたとしても、学校好きなのに急に行かなくなるという子どももいる。夏休みまで普通に通学していたのに、夏休み過ぎたら急に不登校になって、でも友達とも普通に遊ぶし、先生が家に来てニコニコ対応しているし、だけど何かあって学校には行けないという場合もある。原因が分からない。
- 委員) 現状の小学校の環境に対して概ね満足している中で、再編の話があがってきて、面倒くさいと思うのが正直なところだと思う。ただ、いろんな話を聞いている中で、再編なんてありえないよ、というわけでもない。再編についてのメリットがイメージだけの話ではなくて、具体的に出てこないと分からない。
- 委員) 全然関係ない立場の人から言わせると、中学校の単位でひとつにまとめたらいという意見もある。

委員) 以前は2クラス以上あったが、今の子どもは1クラスが普通だと思っている。人間関係は人数が多かろうが、少なかろうが、好き嫌いもあるし、イジメに近いような問題は発生していると思う。再編の是非については、ここで答えを出すことは難しいと思うけれども、学校がなくなると地域コミュニティがなくなると思う。だから、それを含めて考えてもらわないと、地域があるから学校ができたのか、学校があるからそこに人が来たのか、ということではないとは言いにくいけれど、仮に小中一貫教育になったとして、それなら学校の近くで住もうかとなるかもしれない。そうなると、学区単位のコミュニティは当然として、字もなくなる。自治振興会なんてものもなくなるだろう。それも含めて、この再編という話になっているのかを聞いてみたい。

委員長) 事務局に聞きたいのだが、再編することで保護者に費用負担の面でメリットがあるのか。例えば、給食費がタダになるとか。

委員) スクールバスが出たときに、必ず無料になるのか。再編してから考えるのではなく、今の時点で決めておいてもらわないと困る。今は、補助金が出ているところと出ないところがあって、高峰は地域でコミュニティバスでの通学にすると決めたのに、補助金の出ている家庭と出していない家庭がある。

委員) 距離が4kmに満たないから対象となっていない。

事務局) 距離の算出方法については、ここでお答えできないが、補助金の対象となる基準については、4kmという規定がある。再編してスクールバスになるのか、コミュニティバスに乗ってもらうのか、今の時点でお話できない部分もある。あくまでも一担当としての考えで、財政協議も何もしていないが、再編して通学距離が延びたことに対して保護者の負担が増えるということはあるとは思っている。教育委員会としては、そういう方向性で財政協議していくことが当然のことだと考えている。

委員) 再編とは関係ないが、今の時点で油日小に通っている人の中で、高嶺という地域でコミュニティバスを利用することを決めたのに、住んでいる場所で補助金の有無が変わってくるというのはどうにかならないのか。地域で決めたことなのだから、地域全体に適応するというわけにはいかないのか。

委員) 通学路を通ってもらったら分かるのだが、交通事故、死亡事故が続いているところがあって、非常に危ない。何とかならないのか。

事務局) 今、担当に伝えさせていただく。

委員) そういう細かい話をしだすと、例えば、学童に通っている子どもはどうなるのか。バスの時間が決まっているとして、そのバスに必ず乗ってねという話になっても困る。

委員) 学童は迎えではないのか。

委員) 今は迎えだが、バスで遠くの学校に行くことになった場合、バスでどこかまで帰ってくることになるか。また、学童も一つに統合されるのか。

委員) 甲賀町内であれば、迎えに行くこともできるのではないかと。

委員) そういうことまで話すと、ものすごく細かいところまで議論しないといけな。

委員長) 議論が白熱しているところだが、時間も超過している。いろんな意見が出ていて、なかなか方向性を決めるというのは難しいけれども、徐々に議論を煮詰めてい

って、できるだけ早い段階で方向性を出していきたいので、次回からも出席いただきたい。次回からは幼保のほうも議論したいと思う。

委員) 幼保の話をこの場でできるのか。

委員長) 幼稚園や保育園の保護者の方は、子どもが小さいこともあって、夜の時間はなかなか出にくい。そのため、メンバーに入れることができなかった。ただ、ここでの議論については、西保育園とにこにこ園にも毎回渡している。

委員) これから幼保をどうするというのを考えるなら、これからどう子どもを増やすかを考えないと。

委員) やっぱり、人を呼び込まないと。

委員長) 皆さんのお子さんも幼稚園、保育園を出たと思うので、そのことを思い出しながら、少しでも議論いただきたい。今日は時間も過ぎているので、この辺で終わりたいと思うのだが。

委員) 議論で出ていた資料について、出しにくい部分はあると思うけれども、少しでも出すことはできるのか。出せないなら出せないでいいので、一度、学校教育課と検討してほしい。

委員) 幼保の問題をやるのであれば、我々は分からないので、保育幼稚園課の人に来てもらって、メリットとデメリットについて話してもらわないと議論できない。

委員長) それと、学校教育課の人が来てもらうことは可能か。

事務局) 調整して、必ず出席するようにする。

事務局) 今日はありがとうございました。次回の会議の日程を決めていただきたい。

委員長) 3月はちょっと遅らせて23日の週でどうか。

事務局) 学校教育課との調整もあるので、予備日も含めて候補日を挙げていただけるとありがたい。

委員長) 第1希望が26日、第2希望が27日ということで。ということで、本日はありがとうございました。次回もよろしくお願ひします。

5) 次回(第4回)協議会

日時: 第1希望 令和2年3月26日(木) 19時30分から
第2希望 令和2年3月27日(金) 19時30分から